

令和2年度第1回和泉市子どもの読書活動推進協議会（書面開催）結果

（1）会長・副会長の選任について

【結果】

委員の皆様の承認をいただき、下記のとおり選任いたしました。

会 長	小前 恭則	委員
副会長	北野 洋一	委員

（2）令和元年度数値目標の実績について

【各委員からのご意見】

- ① 子ども達の本離れが様々の情報手段により加速されているのですが、矢印だけを見ますと厳しい現実なのかと思われませんが、子どもの頃の読書の楽しさ、大切さを伝えていきたいです。
- ② 本年度はコロナウィルスによる感染拡大により、各種行事等中止や延期で本推進計画も実行が難しかったかとは思いますが、来年度に向け健闘を期待したいと思います。
- ③ 熱い思いが詰まった資料に感銘しました。
策定の経緯や時代の変化に伴う読書の必要性を改めて感じました。
未就園児・幼稚園・保育園・小学校等において本との出会いの場づくりや子どもと本をつなぐ人づくりについての取り組み、また、本に触れることや本を楽しむことがいかに工夫されているか、図書館と各方面との連携の強化の内容もよくわかりました。
- ④ 学校図書館図書標準を達成している小学校の割合が年々増加している点は子どもの読書活動推進に向け、関係者が積極的に動いていることを表す大変素晴らしい結果だと思います。
一方で、中学校の割合については、少しも変化しておらず難しい問題を孕んでいるものなのかもしれませんが、その点が少し残念に思いました。
また、貸出冊数や図書館の利用者率の算出は長期的な観点から評価するに当たり今後も続けるべき、有益なものかと思えます。
しかし一方で、それらの数値は読書活動推進に向けた様々な取組からすぐに増加・減少するような種類のものではないと思いますので、3年間の数値結果のみからは何も言えないように思います。
- ⑤ 不読者率の増加を食い止めることは、大事な課題と考えます。中学校は横ばいですが、小学校が目標値に近づいていることは評価できます。不読者を減らすには、朝読や学校図書館の活用が効果的と考えます。今後とも取り組みをお願いします。

⑥ 子どもの市立図書館利用者率は、コロナ禍を考えれば、前年度よりほぼ横ばいと理解されますが、中学生の利用率が下がっているところは気になります。今後とも取り組みをお願いします。

⑦ 資料番号2について

子どもの読書活動推進に向け、今後も引き続き、保育園では、乳幼児期にとって絵本の読み聞かせが大切であることを保護者に発信する機会をもち、ゆったりと親子で絵本を楽しむ時間をもっといただけるように努めていきたいと思えます。

⑧ 資料番号3について

令和元年度実績から、学生の図書館利用の減少にはインターネットやスマートフォンの影響が大きいことがよくわかりました。今後も毎月頂いている図書館だよりの情報や図書館のホームページ等の発信の必要性を感じました。

⑨ 中学生からの「読書離れ傾向」を抑えるための一助として「ぶっくんつうちょう」の有効活用があげられると思えます。

もちろん中学生も通帳を手に入れられるのですが記帳終了後の特典プレゼントがほとんど「小学生以下対象」と思われます。「物で釣る」ではないですがそこに一工夫加えれば「通帳の発行部数増」や「読書率向上」につながるのではないのでしょうか。

【各委員からのご質問】

①2019年度の到達目標については、年度末にコロナ禍に襲われ、多くが下回る結果になったことは、理解できるところです。

到達目標で、気のついた点ですが、12項目目の「子ども1人あたりの市立図書館貸出冊数」は、第2次計画では、「子ども一人当たりの市立図書館児童書貸出点数」でした。この変更について、簡単にご説明をお願いします。

【事務局より回答】

第2次計画の「子ども一人当たりの市立図書館児童書貸出点数」も第3次計画の「子ども1人あたりの市立図書館貸出冊数」も、子ども向けの図書（児童書・ティーンズ・コミック）の貸出点数を数値目標として設定しているため、数値の中身に変更はありません。ただ、貸出点数の中身には児童書以外の図書も含まれているため、第3次計画では「子ども1人あたりの市立図書館貸出冊数」とさせていただきました。

②その「子ども1人あたり市立図書館貸出冊数」は、唯一目標値を達成しています。これは、リピート率が上がったとも解され、「ぶっくんつうちょう」の効果もあったと考

えられますが、現場の実感としてはいかがでしょうか？

【事務局より回答】

現場職員の実感としては、2冊目3冊目発行の子どもたちが増えてきていることもあり、効果はでていていると思います。

- ③一方で、「ぶっくんつうちょう」の発行部数は、目標値には程遠い数値になっています。今後とも「ぶっくんつうちょう」の活用について検証しながら進めていただければと思います。

【事務局より回答】

ぶっくんつうちょうの発行部数目標値については、五年間の合計で想定していますが、「資料番号3」では年間の実績値のみしか示しておらず、わかりづらくなってしまいました。今後は年度の実績の下に括弧で30年度からの総計を記載していくようにしたいと考えています。

- ④ 資料番号3の数値目標について、新型コロナウイルスの影響で図書館の来館者が減少しているのか、家で過ごす時間が増えることで図書を借りる人が増えているのかでいくつかの項目の数値目標の設定を変える必要があるように思います。現時点では、新型コロナウイルスの影響で図書館の来館者に変化があるのか教えていただきたいです。

【事務局より回答】

来館者数は前年度に比べて減少しています。来館者数は、臨時休館明けの6月は前年比45%でその後徐々に回復しつつあるものの12月時点でもまだ前年比約70%程度です。その一方で、貸出冊数は前年比80%~90%で推移していることから、来館者に対する貸出率は増加している傾向があると考えられます。

(3) 令和元年度の事業報告について

【各委員からのご意見】

- ① 事業を担当されている方々の努力の後がうかがわれながら前項の数字に表れてこないことが残念です。
- ② 事業一覧を拝見してこんなにたくさんの催しがされていてすばらしいな…と改めて思いました。
今年には新型コロナ感染防止等によりおはなし会や行事がなくなり残念なこともありましたが、できる限りの安全対策をしてくださっている図書館のスタッフの皆様之感

謝しています。

「ぶっくんつうちょう」の発行は自分の読んだ本の名まえが残るのでとても良いです。私の小学生の孫も冊数が増えていくのを楽しみにしており、大人になっても子どもの頃に読んだ本をなつかしく思うことでしょう。

- ③ さまざまな取り組みが行われており、一定の成果を上げていると考えます。
1. 「えいごであそぼ・・・」は、小学校低学年でも英語に親しむ授業が行われる中、効果的な事業と考えます。
 2. 「黒魔女さん」の作家石崎氏や「ももんちゃん」のとよた氏など、人気作家の講演会は参加者も多い。中高生向け講演会は、たいへん有意義だと考えます。
 3. ほかに、「ぬいぐるみおとまり会」「調べ学習出前講座」「POP スクール」「読書の木」などの取り組みが目につきました。今後とも、取り組みをお願いします。
- ④ 資料番号4について
- にじのとしょかんで行われている出張図書館が、他の地域でも可能になれば良いと思いました。図書館に行くことが困難な家庭や育児中の小さいお子さんをもつお母さんも毎月楽しみに出来るのではと思いました。
- ⑤ 令和元年～2年にかけては、コロナ感染拡大防止に意識が行きがちであったので、事業に対しての評価を下すことは極めて難しいと思います。
- ⑥ これからの時代「オンライン」でできる事業や取り組みも必要となってくるのではないのでしょうか。
- ex : [オンライン] 読み聞かせ、工作教室 など

【各委員からのご質問】

- ① 課題・問題点が示されており、また、具体的に「事前申込制にボランティアと連絡を図る必要があった」といったものは次回に活かせる（PDCA サイクルに寄与する）良いフィードバックかと思えます。
- しかし「広報がうまくいかなかった」については、その根拠や、もう少し改善に活かせる具体的なものを述べた方が良いでしょうと思いますが、そのようなものはありますでしょうか？

【事務局より回答】

「絵本作家はまのゆかさんワークショップ」について、通常の広報（市の広報誌やいずみメールでの周知など）で募集をしましたが、親子 50 組募集に対し参加は 16 組でした。応募状況の推移等をみながら、少ないと気づいた時点で学校や関係施設へのアプローチや来館者への積極的な PR など、従来の広報手段以外での多様な対応に取り組む必要があったと考えており、以降の課題として認識しています。

(4) その他

【各委員からのご意見】

- ① コロナ禍の中思うように活動ができていないですね。
- ② 今回のコロナ禍により巣ごもり需要から「読書の時間が増加した」とのニュースも聞かれました。

ステイホーム中での家庭内での子ども達の読書量など聞いてみたいと思います。
- ③ 私の地域にある南部リージョン図書室の絵本コーナーは季節に応じて環境を変えたり、常によく素敵に模様替えされており、うれしいです。

おはなし会ではちいさなお子さんといっしょにお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんがしばし、絵本やおはなしの世界を楽しんで、いっしょに手遊びをしたり、うなづいたり、笑ったりしてくださっていてとてもうれしいです。

毎月「今月は〇〇さんの絵本」ということで作者を決めて行われています。

その月の担当者が自分でも絵本をさがしますが、図書館のスタッフさんがその月の作者の絵本をたくさん集めてくれているので事前に図書館に行って読みたい本を選んでいきます。

聞き手の子どもたちは作者のことはよくわかっていないと思いますが、ボランティアの仲間は改めて絵本作家を知る良い学びの機会になっていておもしろい企画だと思っています。

もう10年位前になりますが、私たち「やまびこ」の活動のスタートに当たり、市内の図書館巡りをして各館内の見学や取り組みの話を聞いてとても良かったです。また、横山小学校の図書室で講師を招き、絵本の読み方を教えてもらったり、絵本を読んでもらって楽しみました。

「やまびこ」のメンバーは現在17名、南部リージョン図書室・横山小学校・きのみ保育園で毎月一回大事だと常に思いながらその機会を持ってないでいます。

今年は保育園も小学校も全て休止しています。

また、子どもたちの前で絵本を読める日を楽しみに待っています。
- ④ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から外部の方による絵本読み聞かせが中止になり、貸し出し絵本も2学期からようやく再開されました。

新しい生活様式をとり入れながら安心安全な教育活動を行い、将来コロナ禍の不遇な時代を過ごした世代だと言わせないためにも、工夫しながら読書への関心を高める活動を考えていきたいと思っています。
- ⑤ 保育園の取り組みについて
 - ・日々保育の中で、保育士が年齢に配慮した絵本の読み聞かせを行っています。

また、見たい絵本に触れる環境を大切に、週に一度絵本貸し出しを行い、家庭で楽しんでもらえるようにしています。

- ・近隣に図書館がある場合は幼児クラスが利用することがあります。たくさんある絵本の中から興味津々で選んでいる子どもたちです。
- ・保護者には各年齢が毎月のクラスだよりも子どもの好きな絵本を紹介したり、保育園で新しく購入した絵本をその都度「絵本だより」を発行したりと絵本に関心をもってもらえるようにしています。
- ・例年であればボランティアの方が月に一度来園していただき、読み聞かせをお願いしていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため行うことが出来ていません。月に一度ではありますが、年齢に合ったたくさんの絵本を用意してもらい、子どもたちは喜んで聞いていました。
今後、再開していただける日を楽しみにしています。

【各委員からのご質問】

- ① 【資料番号 2】（第 3 次和泉市子どもの読書活動推進計画）の 19 ページには、「市や図書館のホームページ、SNS（ツイッターなど）を利用した情報発信」というように書かれています。

現在、多くの利用者が図書館のホームページを閲覧して図書館を訪れるように思いますので、このような情報発信は素晴らしいことと思います。それだけに、具体的な内容が書かれていない点が気になりました。具体的に計画している内容や目標はありますか？

現在の和泉市の図書館のホームページは、図書館要覧や図書館便りなども閲覧できる点は大変素晴らしい、高く評価されるべき点だと思います。

一方で、図書館に来たことがない人たちが、図書館の内部がどのようなものかイメージしづらいような気がします。

館内地図を掲載したり、Google ストリートビューで館内が見られるなどといった潜在利用者にアプローチするような仕組みを作ると、利用者がより安心して図書館を訪れることができるようになるのではないかと思います。

【事務局より回答】

ホームページでは、今年度から臨時休館中に図書館から発信をという試みで「ぶっくんのとしょかん日記」を開始しました。開館再開後も継続し、館内の様子やイベント情報などを週 1 回以上の更新で発信しています。新年度からは SNS（インスタグラムを予定）を検討中です。ストリートビューについては、以前のホームページではバーチャルツアーの名称で館内の様子を紹介していました。現在のホームページでは搭載が難しいのですが、潜在利用者へのアプローチとして有効な手段だと認識しています。

- ② 前年度の推進協議会で「学校図書館と市立図書館の連携会議」の報告がありました。これは、たいへん意義のある取り組みと考えます。その後の取り組みや今後の計画についてご報告をお願いします。

【事務局より回答】

令和2年2月に、令和元年度第2回の連携会議を開催しました。市立図書館から学校図書館へのリサイクル本の提供や、市立図書館から学校図書館への百科事典の貸出についての情報共有、「うちどく」について小中学校が連携して広げていくことが出来ないか、などの議題が挙がりました。

「学校図書館と市立図書館の連携会議」については、今後も継続して実施していきたいと考えていますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、開催できていません。

- ③ また、「家読（うちどく）」の促進も話題にのぼっておりました。その後の取り組みがありましたらご報告をお願いします。

【事務局より回答】

令和2年2月の連携会議では、うちどくを浸透させていくため、市立図書館だより、広報などで特集を組んでいきたいという話が出ていました。しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの影響により、「こはくの本だな」（和泉中学校区の保護者向けの図書館だより）の発行も停滞している状況です。

- ④ 学校図書館の活用については、学校教育室・学校と市立図書館の連携が大事だと考えます。また、学校図書館支援司書の活動をもっと広く知ってもらい必要があるのではないかと考えます。学校図書館支援司書の研修や連絡会をもつことで、情報が共有され、学校図書館の活動に活かされることを望みます。

【事務局より回答】

引き続き、連携会議を実施し情報の共有に努めていきたいと考えています。また、学校図書館支援司書の研修や連絡会については、例年、学校図書館支援司書連絡会を月に1回程度開催し、各学校図書館における取組みの情報共有や研修を実施していますが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となっています。

【和泉市子どもの読書活動推進協議会 小前会長より】

《令和2年度 第1回和泉市子どもの読書活動推進協議会（書面開催）結果》を受けて
今回は、コロナ禍での書面開催という形になりましたが、それぞれの活動のようすや
課題を共有することができたと考えます。

事業報告からは、コロナ禍でのさまざまな取り組みを見ることができました。「絵本の
読み聞かせ」などのボランティア活動が休止の状況にありますが、改めて、その大切さ
を認識したところです。コロナ禍での図書館活動では、HPからの発信など、コロナ後にも
活かしていただきたいと思います。また、学校図書館の充実に引き続き取り組みをお
願いたします。ありがとうございました。